

# DOKIGAWA

リバーキーパーズ

# RiverKeepers



# つうしん

Vol.109(平成26年1月)

新年明けましておめでとうございます。今年もリバーキーパーズの皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。皆様にとって、この一年がより佳き年であることをお祈りしています。

今回は、「第1回大規模水災害に適応した対策検討会」の開催報告と「工事紹介」、「河川愛護モニターの募集」についてお知らせします。

## キーワード:「第1回大規模水災害に適応した対策検討会」開催報告

### 土器川で大規模水災害に適応した対策検討会を開催しました。

近年、地球温暖化などの気候変動により豪雨等の発生頻度が高くなっている傾向にあります。これにより、計画規模を上回る洪水(超過洪水)が発生する恐れが高まっています。

土器川では、日頃想像することが難しい、堤防決壊に伴う大規模水害について、どのようなことが困るか等、地域住民による情報共有と地域の対策について検討するためのワークショップを3回にわたり開催してきました。

今回、ワークショップにより把握した住民意識を踏まえ、大規模河川氾濫が発生したときの被害と対策及び「水災害に適応した強靱な社会」作りの方向性等をとりまとめるため、大学、国、県、関係市町、香川県防災士会等が集まり検討会を開催しました。

日時 : 12月19日(木) 13:30~15:30  
場所 : 丸亀市民会館2F 第2、第3会議室

検討会では、香川大学危機管理センター長である白木会長の進行のもと、県や各市町の防災担当者から活発な意見が出されました。



会議の様子

本検討会は、全2回を予定しているもので、次回は2月24日を予定しています。この検討会により「大規模水災害に適応した対策検討会とりまとめ書(案)」をとりまとめ、「香川地域継続検討協議会」(会長 香川大学 危機管理研究センター長)への提出を通じて、全国に先駆けた香川地域の大規模水害への地域継続に役立てます。

また、以下のサイトで本取組に関する情報を公表しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/kagawa/river/daikibosuibai/index.html>

香川河川国道事務所  
にあるこのバナーを...



クリックしても閲覧  
できます

## 私たちの大規模水害対策（地域住民のアイデア）意見集約表（第3回WS意見より）

	災害への備え（事前対策）	被災直後（応急対策）	その後、通常の生活に戻るまで（復旧・復興対策）
<b>自助</b>  （自分自身がすること）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>避難行動の判断基準を決めておく</b></li> <li>・ 避難所や避難ルートを決めておく</li> <li>・ 防災ハザードマップや危険箇所を確認しておく</li> <li>・ 水害に関する知識を身につけ、家族で共有する</li> <li>・ 河川水位等の情報収集の手段を考えておく</li> <li>・ 避難訓練への参加</li> <li>・ 食料の備蓄や防災用具等を準備しておく</li> <li>・ 土のう等の準備や排水路の清掃により、浸水被害軽減に備える</li> <li>・ 災害保険加入や貴重品の持ち出しによる生活再建に備える</li> <li>・ 水害に強い家づくりを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人命を第一に考え、家族等の集団で避難する</li> <li>・ 避難時に近隣住民に呼びかけて避難を促す</li> <li>・ 2階等の高地へ避難する</li> <li>・ 家族単位で安否確認を行い、家族間での連絡方法を確保する</li> <li>・ ラジオ等で情報収集に努める</li> <li>・ 避難時の必要物資等を2階に移動・確保する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教訓を活かし、今後の避難行動等に活かす</li> <li>・ ボランティア連携、助け合いによる復旧に努める</li> <li>・ 地域や近隣の被害状況、安否確認を行う</li> <li>・ 飲料水等の衛生面に気をつける</li> <li>・ 健康状態、メンタルケアに気をつける</li> <li>・ ゴミ・ガレキの片付け、自宅の復旧に努める</li> <li>・ 食料等の確保</li> </ul>
<b>共助</b>  （地域がすること）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>水害に関する知識の周知、地域の避難マップの作成</b></li> <li>・ 自治会単位での連携・災害への備えを決めておく</li> <li>・ 災害時要援護者の名簿整備、避難方法、連絡手段を考えておく</li> <li>・ 災害時の危険箇所の行政への情報提供</li> <li>・ 避難訓練の実施</li> <li>・ 自主防災組織の充実</li> <li>・ 避難所の増設、高層マンションを一時避難所に活用</li> <li>・ 土のう、排水ポンプの配備</li> <li>・ 自治会で救命ボートを配備</li> <li>・ 地域単位での備蓄と配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣住民で連絡体制を確保し、安否確認を共有する</li> <li>・ 近隣住民で災害時要援護者の避難を支援する</li> <li>・ 近隣住民への避難の声かけ、避難の助け合い</li> <li>・ 自治会の無線機を活用し、水害情報を共有する</li> <li>・ 地域の防災文化を維持し、コミュニティで支援する</li> <li>・ 救助活動の支援</li> <li>・ 水防活動の支援</li> <li>・ 自治会単位で食料確保、炊き出しの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治会で地域被害状況を巡回して調べ、行政等へ情報を伝える</li> <li>・ 自治会単位で要援護者等の安否を確認する</li> <li>・ 日常生活に戻るまで助け合う</li> <li>・ 地域内のゴミ等の片付け手伝いの助け合い</li> <li>・ 復旧の共同作業の呼びかけ実施</li> <li>・ 避難所利用ルールを作り、物資の持ち寄り・配分</li> <li>・ 高齢者等の健康状態の把握、メンタルケア</li> <li>・ ボランティア受け入れ体制確立、連携による復旧</li> </ul>
<b>公助</b>  （行政等に助けてほしいこと）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>地域の過去の災害情報の調査</b></li> <li>・ 自主防災組織強化の支援（ルール作り等）</li> <li>・ 排水ポンプの拡充、排水計画作り、排水施設増設</li> <li>・ ポンプ場の耐水化</li> <li>・ 堤防強化、河道掘削等の河川整備推進</li> <li>・ 避難所の確保・整備及び道路高上げ整備（避難ルート確保）</li> <li>・ 道路拡幅</li> <li>・ 防災・避難訓練の支援</li> <li>・ 河川監視体制強化、防災無線の拡充、情報伝達装置の保守点検</li> <li>・ 企業・団体との災害協定作り</li> <li>・ 水防活動機材の点検・整備</li> <li>・ 家屋耐水化の推進</li> <li>・ 簡易トイレの確保</li> <li>・ 非常食等の備蓄</li> <li>・ 救命ボートの配備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>避難判断水位等の避難の目安の周知</b></li> <li>・ 早期・正確な情報収集と発信</li> <li>・ パトロール車等での声かけ</li> <li>・ 要援護者の避難支援、救助</li> <li>・ 連絡網の確保</li> <li>・ 排水機器の早期配置</li> <li>・ 危険箇所の道路通行止め処理・交通規制</li> <li>・ 防災組織本部の立ち上げ</li> <li>・ 不衛生箇所の消毒</li> <li>・ ガレキ片付けによる道路確保</li> <li>・ ヘリコプター手配</li> <li>・ 簡易トイレ設置、物資供給の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライフライン・インフラの早期復旧</li> <li>・ 自衛隊、ボランティア派遣要請</li> <li>・ 被災地区の重点パトロール</li> <li>・ 消毒（衛生面対応）、メンタルケア支援</li> <li>・ ゴミ、ガレキ処理、重機の手配</li> <li>・ 緊急物資の配送、排水ポンプ手配</li> <li>・ 物資の確保・供給</li> <li>・ 復旧、防災予算の確保と対策実施</li> </ul>

注)  ：「避難の実行」に関する意見、  ：「避難の実効性確保」に関する意見、 赤字：重要項目

# 大規模水害対策の目標と戦略へのアプローチ

## 1. 大規模水害に対する現状の課題

- ・近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響により豪雨等の発生頻度が高くなっている傾向にあり、**計画規模を上回る洪水(超過洪水)が発生する恐れ**が高まっている。
- ・大規模水害について共通の想定がなく、自治体間での連絡・調整が図れていないことから、**大規模水害の情報を共有し、自治体間での連携の仕組み(組織)を確立**する必要がある。
- ・大規模水害時には、1個人・1地域では対応できないため、**広域での対応**が必要である。
- ・自治体BCPには地域連携(住民、広域)の視点が含まれないため、**地域連携によるDCP(地域継続計画)の考え方を導入**する必要がある。

## 2. ワークショップの目的と検討手法

### <大規模水害の認識と特徴>

- ・過去に大規模な水害(堤防決壊等)を受けていないため、**大規模水害の想定に対する認識が不足**している。(地域住民は、小規模水害はイメージできるが、大規模水害はイメージしづらい。)
- ・大規模水害による氾濫現象は複雑で、被害の状況は**時系列的に変化**する。
- ・大規模水害による被害は、**広域性**を持ち、**上中下流で被害の形態が異なり、自治体も異なるため、被害への対応が地域によって異なる**。

### <目的>

- ・大規模水害への対応は、河川と流域の関係の再構築とも考えられ、**地域と一体となって取り組む**必要がある。
- ・このため、上中下流域の住民や関係機関等が共通の認識を持つことができるように、大規模水害に関する様々な情報を公表し、共有化を図り、**地域住民の意見集約を行い、合意形成を図る**ことが重要である。
- ・本ワークショップは、上記を踏まえ、大規模水害に着眼し、上中下流域の住民が一体となって広域的に議論することにより、**住民目線による“水害に強いまちづくり”を目指したものである**。

### <検討手法>

- ・**情報共有ツール(地域共通情報と地域個別情報)**を用いて、情報を共有し、**「私たちの大規模水害対策」**というテーマで意見集約

## 3. 私たちの大規模水害対策(地域住民の主なアイデア)

	災害への備え (事前対策)	被災直後 (応急対策)	その後、通常生活に戻るまで (復旧・復興対策)
自助 (自分自身がすること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>情報取得手段の確保</b></li> <li>・<b>避難行動の判断基準の設定</b></li> <li>・<b>避難所・避難ルート</b>の確認</li> <li>・非常持出品・防災用具の確保</li> <li>・防災学習、防災訓練への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>安全かつ早めの避難の実行</b></li> <li>・<b>情報の取得</b></li> <li>・家族の安否確認</li> <li>・食料・物資の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅や周辺のごみ片付け・清掃</li> <li>・情報の収集</li> <li>・被害状況の確認</li> <li>・健康管理</li> </ul>
共助 (地域がすること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>自主防災組織の活性化</b></li> <li>・<b>災害時要援護者の支援(名簿作成、避難方法等)</b></li> <li>・<b>連絡体制(連絡網)の整備</b></li> <li>・防災訓練・避難訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>助け合いによる避難の実行</b></li> <li>・<b>災害時要援護者の避難支援</b></li> <li>・被災状況の確認・把握</li> <li>・隣近所の安否確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復旧の協同作業(避難所運営、ごみ片付け等)</li> <li>・被害状況・被害者の確認・把握</li> <li>・衛生対応</li> <li>・ボランティアの受入・連携</li> </ul>
公助 (行政等に助けをほしいこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>河川整備の実施</b></li> <li>・<b>排水施設・重要施設の耐水化</b></li> <li>・<b>情報伝達手段の充実・確保</b></li> <li>・<b>避難所の確保、避難ルート(道路)の整備</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>避難の目安の周知</b></li> <li>・<b>正確かつ早めの情報の発信・伝達</b></li> <li>・被災状況の確認・把握・周知</li> <li>・緊急活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフライン・インフラの早期復旧</li> <li>・水害廃棄物(ガレキ、土砂)の処理</li> </ul>

注)赤字は、大規模水害対策の「目標」につながる主なアイデア

## 4. 大規模水害対策の目標と戦略へのアプローチ

### 1) 住民(自助)や地域(共助)による取り組み

#### (ワークショップ実施前の認識)

- ・洪水ハザードマップは、作成済み
- ・緊急活動情報は、地域防災計画等で行政機関が整理
- ・危険情報は、行政機関が主体での取り扱い

#### (ワークショップの場での情報共有)

- ・**被害想定** :最大浸水深、浸水深の時系列変化
- ・**被害指標** :浸水深による被害発生の目安
- ・**緊急活動情報** :緊急活動拠点、防災関係機関の緊急活動内容

#### (ワークショップ実施による成果)

- ・地域住民が住民目線で身近な**危険情報のしきい値(目安)**を持ち、適切なタイミングで危険情報を入手できれば、地域住民が自ら判断し、助け合うことにより、**命の安全を確保するための避難行動**につながるのと同時に、**規範意識の向上**につながることを確認できた。

#### (目標)

- ・様々な機関が持つ**危険情報と地域コミュニティ活動の有機的な連携**を図ることにより、地域住民が自ら判断し助け合って、命の安全を確保するための**避難を実行**する。

#### (戦略)

- ・住民目線による**危険情報共有ツール**を整備
- ・適切なタイミングにより**危険情報を取得できる環境**を整備
- ・地域コミュニティ活動の活性化を図るために**自治体機能**を強化
- ・危険情報と地域コミュニティ活動を有機的に連携させるために**香川型DCP手法**を普及・促進

### 2) 防災関係機関(公助)による取り組み

#### (ワークショップ実施前の認識)

- ・“まちづくり”は、各施設管理者や個々の計画による効率性を優先した整備
- ・河川整備においても、費用対効果を踏まえた計画に基づく段階的な整備

#### (ワークショップの場での情報共有)

- ・**意見抽出** :地域機能支障(困ること)、地域の生き残りのアイデア
- ・**緊急活動情報** :緊急活動拠点、防災関係機関の緊急活動内容
- ・**対策効果事例** :被害軽減対策のアイデア効果事例

#### (ワークショップ実施による成果)

- ・地域住民からは、**避難時間をより長く確保**することや、**浸水被害の早期回復**を図ることにより、安全な避難行動や早期の復旧・復興が容易になるとの意見が多く寄せられた。

#### (目標)

- ・大規模水害に対する**地域共通の想定シナリオ**を持ち、安全な避難や復旧・復興に対して**実効性を確保**する。(被害の防止・軽減・早期回復のための施設整備を実施)

#### (戦略)

- ・地域間で共通化された**大規模水害想定シナリオ**を作成
- ・急流河川のため、**避難時間を確保できる施設の整備**を優先
- ・**浸水被害の早期回復に貢献する施設や防災拠点機能の継続性**を確保
- ・新規の施設整備にあたっては、**安全な避難に対する実効性の確保や耐水化等による施設の機能向上**

# 土器川(中讃地域)ケーススタディから見た香川型DCP検討の提案

## 1. 香川型DCP検討の目的

危険情報と地域コミュニティ活動の有機的な連携

＜強靱な社会を目指して＞  
 ・レジリエンス(強靱性)を高めるために  
 ①頑強なこと ②ゆとりがあること  
 ③資源が豊かなこと ④すばやいこと

## 2. ワークショップでの検討手法(土器川ケーススタディ)

### 1) ワークショップ・メンバー

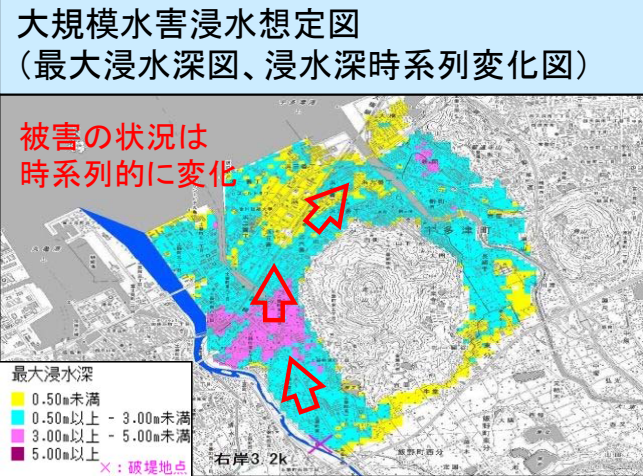
- ①テーブル参加者: 地域住民(丸亀市、まんのう町、坂出市、善通寺市、宇多津町、琴平町)
- ②テーブル進行者: 防災士会(防災リーダーの役割)
- ③テーブル記録者: 関係市町職員
- ④スタッフ: 香川大学危機管理研究センター、丸亀市、まんのう町、坂出市、善通寺市、宇多津町、琴平町、香川県中讃土木事務所、国土交通省 四国地方整備局 香川河川国道事務所

### 2) 検討手法

・情報共有ツール(地域共通情報と地域個別情報)を用いて、下表の検討プロセスに従い、情報を共有し、「**私たちの大規模水害対策**」というテーマで意見集約

- ①**地域個別情報**: 洪水ハザードマップ(大規模水害浸水想定図: 最大浸水深図、浸水深時系列変化図)
- ②**地域共通情報**: 被害指標(浸水深により“困ること”が変化)、緊急活動拠点(避難所を含む)、防災関係機関の緊急活動内容

### ＜①地域個別情報＞



### ＜②地域共通情報＞

- 被害指標(浸水深により“困ること”が変化)
- 緊急活動拠点(避難所を含む)
- 防災関係機関の緊急活動内容

### ＜検討プロセス(情報共有と意見抽出)＞

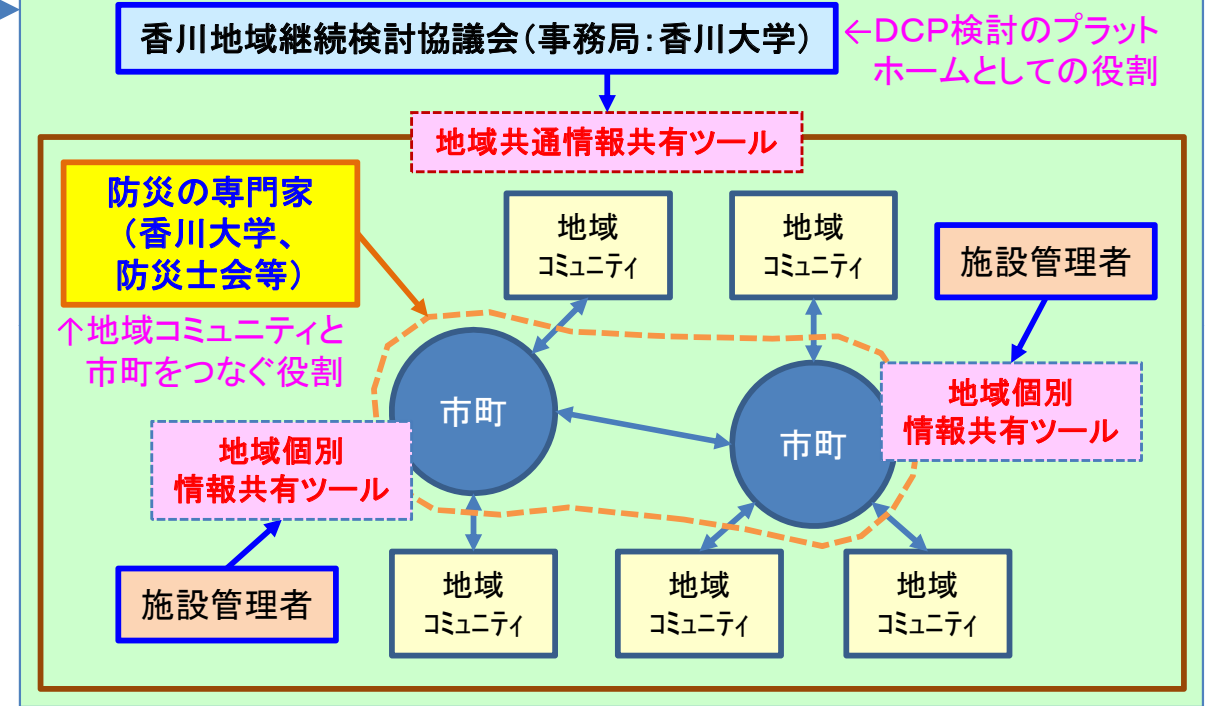
	情報共有	意見抽出
議論の場(過程)	・被害の想定(最大被害、被害の時系列変化)	・地域機能支障(困ること)の抽出
	・災害時の緊急活動内容	・緊急活動を踏まえた地域機能支障(困ること)の掘り下げ ・地域生き残りアイデアの抽出
	・あらゆる情報の再共有(情報共有ツール)	・私たちの地域の掘り下げ(“水害に強いまち”に成り得るかを確認)

### ＜私たちの大規模水害対策＞

いつ	災害への備え	被災直後	その後(通常の生活に戻るまで)
自助			
共助		何をするか	
公助		誰が	

「自助」: 自分自身がすること(命を守る)  
 「共助」: 地域がすること(地域を守る)  
 「公助」: 行政等に助けてほしいこと(住民や地域を支援する)

## 3. 香川型DCP検討の枠組み



## 4. 目標と戦略

目標	戦略
<ul style="list-style-type: none"> <li>①「犠牲者ゼロ」、「被害の最小化」を目指す。(災害を完全に防御することは困難という考え方が前提)</li> <li>②地域住民が自ら判断し助け合って、命の安全を確保するための<b>避難を実行</b>する。(自助・共助の取り組みを追求)</li> <li>③安全な避難に対して<b>実効性を確保</b>する。(公助による必要な支援を実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①防災情報の充実 ・地域共通の大規模水害想定シナリオを作成/住民目線による危険情報共有ツールを整備/適切なタイミングにより危険情報を取得できる環境を整備</li> <li>②地域コミュニティの活性化と地域連携体制の強化 ・地域コミュニティ活動の活性化のために自治体機能を強化/危険情報と地域コミュニティ活動の有機的な連携のために“<b>香川型DCP手法</b>”を普及・促進</li> </ul>

## 5. 取り組みに向けての役割

	地域コミュニティ	関係市町	施設管理者	協議会(香川大学)
情報共有と地域連携	各地域において情報共有の場の設置(ワークショップの実施)	地域個別情報共有ツールの作成	地域共通情報共有ツールの作成	
地域コミュニティの活性化	防災リーダーの育成(行政、防災士会等による支援)	-	-	

## 6. DCP策定に向けた検討

- ・PDCAサイクルによる具体的なアクションプラン検討を実施
- ・DCPを上位の考え方とした防災関係機関や事業者のBCP検討を実施

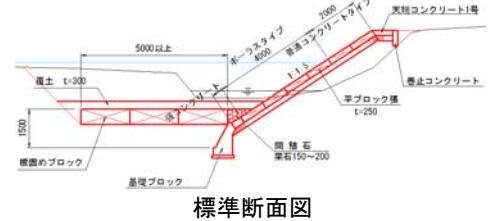
# キーワード: 工事紹介

## ○工事紹介

現在、土器川で実施中の工事である右岸3k/9～4k/9付近の「赤山箇所護岸工事」と左岸1k/9付近の「清水川水門耐震補強工事」を紹介します。

## ○「赤山箇所護岸工事」の目的

土器川の河床勾配は1/100～1/300と急勾配で流速が早く、河岸洗掘等の被害が懸念されます。当該区間は高水敷幅が狭く、また、護岸の根入深が浅い状況にあることから、現在、低水護岸・根固補強等による侵食・洗掘対策を実施しています。



[工事概要]	
工事名:	平成24年度 赤山箇所護岸(その1) 工事外4件
工期:	平成26年3月末(予定)
事業費:	約4億円
請負業者:	(株)協和土建 (株)岩崎建設 横田建設(株)



「護岸基礎工」施工状況

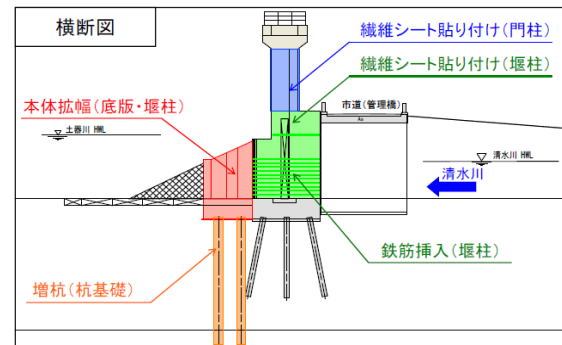
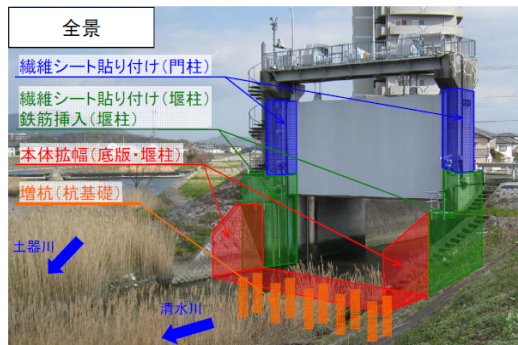


「護岸工・根固工」施工状況

## ○「清水川水門耐震補強工事」の目的

今後、近年中に発生すると想定されている東南海・南海地震等へ備えるため、清水川水門が地震発生時においても水門機能を保持させることを目的として、県内初の水門耐震補強を実施しております。

[工事概要]	
工事名:	平成24～25年度 清水川水門耐震 補強工事
工期:	平成26年3月末 (予定)
事業費:	約1.1億円
請負業者:	横田建設(株)



### ○繊維シート貼り付け(門柱・堰柱)

門柱・堰柱のコンクリート表面に高強度の繊維シートを貼り付けて補強します。

### ○鉄筋挿入(堰柱)

堰柱のコンクリートに穴を開けて、既設鉄筋の間に新たに鉄筋を挿入して補強します。  
※ポストヘッドバー(Post-Head-Bar)工法

### ○本体拡幅(底版・堰柱)

底版および堰柱の幅を広げて、水門本体が壊れないように補強します。

### ○増杭(杭基礎)

杭基礎を増やして、底版が壊れないように補強します。  
※鋼管杭(中掘り工法): 杭本数16本、杭径φ600mm、杭長L=9.5m、杭厚t=12mm



「鋼管杭」施工状況



「繊維シート塗装」施工状況



「鉄筋挿入工」施工状況

工事に関するお問い合わせ先

香川河川国道事務所土器川出張所 丸亀市土器町東7丁目150 Tel 0877-22-8318

# キーワード: 河川愛護モニターの募集



## ○河川愛護モニターの概要

国土交通省では、沿川住民の方々の協力の下で、河川整備、河川利用又は河川環境に関する地域の要望を十分に把握し、地域との連携をさらに進め、あわせて河川愛護思想の普及啓発及び、河川の適正な維持管理を図るため、「河川愛護モニター」制度を設けています。

土器川においても選任しており、引き続き平成26年度の「河川愛護モニター」を以下のとおり公募します。

## 【活動内容・活動範囲】

「河川愛護モニター」は、「河川愛護モニター」会議(年1回程度)への参加と、日常生活の範囲内で知り得た情報(河川の利用状況、ごみ等の投棄、その他河川環境や利用の阻害となる事象など)を河川管理者に対して1ヶ月に1回連絡していただきます。【※余暇時間等で活動できる範囲で結構です。】

※ 定期的に河川を巡視するなどの特別な責務や、ごみ投棄等の不法行為者等に対し、直接注意あるいは是正を図るための指示を行うような権限はありません。

## 【活動範囲】

土器川の河口～18.85kmの範囲、以下の区間を分担し、担当して頂きます。

1. 丸亀市 河口～市町境 《土器川の左右岸》
2. まんのう町 市町境～直轄上流端 《土器川の左右岸》

## 【応募資格】

土器川に接する機会が多く、河川愛護に関心を持ち、モニター活動が積極的に実行出来る満20歳以上の方で土器川の近隣に居住する方。(土器川よりおおむね5km以内)

## 【任期】

平成26年4月1日より1年間

## 【募集人員】

8名程度(丸亀市5名程度、まんのう町3名程度)

## 【手当】

4,500円/月程度

## 【応募方法等】

### ・応募用紙

平成26年2月28日(金)までに、応募用紙(別紙)に必要事項を記入の上、下記受付場所に郵送又は持参して下さい。(書類審査の結果を応募者全員に連絡致します。)

### ・受付場所

香川河川国道事務所土器川出張所	〒763-0082 丸亀市土器町東7丁目150	TEL 0877-22-8318
丸亀市建設課	〒763-8501 丸亀市大手町2丁目3-1	TEL 0877-24-8813
まんのう町建設土地改良課	〒766-0022 仲多度郡まんのう町吉野下430	TEL 0877-73-0107

皆さんの積極的な御応募、お待ちしております!



土器川リバーキーパーズ通信は、皆様のご意見・ご質問に河川管理者としてお答えしていくものです。土器川に関して、気になっていること、わからないことなど、どしどしとご意見をお寄せください。

土器川リバーキーパーズに関するお問合せは



国土交通省四国地方整備局  
香川河川国道事務所 <http://www.skr.mlit.go.jp/kagawa/>

〒760-8546 高松市福岡町4-26-32  
TEL:087-821-1623(計画課直通) FAX:087-821-1713



## 平成26年度 土器川「河川愛護モニター」応募用紙

- ① 住 所：〒
- ② 氏名 (ふりがな)：
- ③ 生年月日：
- ④ 性 別：
- ⑤ 電話番号：
- ⑥ 職業 (勤務先)：
- ⑦ 所属する団体等があればその組織名と役職 (〇〇町自治会役員等)
- ⑧ これまでに自治会等の地域に密着した活動へ参加した経験
- ⑨ 応募理由 (できるだけ具体的に記入をお願いします)
- ⑩ 過去の河川愛護モニターの経験

(①～⑩を記入して応募下さい。)

※ 記入していただいた内容は、平成26年度「河川愛護モニター」の選定及び国土交通省からのお知らせ以外には使用致しません。